







大空を染めて行く軍機

# 勝利の鍵 航空戦力

今日の戦争において航空作戦のもつ意義は大きい。航空戦力のないところに制海権はなく、上陸作戦も、また地上作戦も制空権を握り得てをらねば著しく困難となることは、既に現在の戦局の示すところで、今更に言を要しないであらう。即ち航空決戦こそ現下の戦争の勝敗に最も重大なる影響を及ぼすものである

## 雄大な航空作戦

航空作戦とは単に飛行機だけあれば出来るものではない。いろいろの部隊が航空作戦の目的に向つて各々任務に派遣するのであり、その表面に立つのが飛行部隊である

飛行部隊もまた偵察、戦闘、爆撃等に任務は分れてゐるが、この部隊が各個ばらばらに派遣されたのでは何等効果はないので、指揮官の企圖するやうに通時適切に指揮運用せられることが必要である。このためには飛行部隊の司令部があるが、たゞ司令部と飛行部隊だけでは、この雄大な全世界に亘る航空大戦を遂行することは困難である

航空作戦の特殊として、本日まで北向きに作戦を遂行してゐても、明日は敵を翻じて

南方に機転して、飛行機の快速を利用し、敵の防壁のないところに大打撃を加へることが出来るのである。また具体的な例を挙げると、敵アメリカの第二十三爆撃隊のB24「超空の要塞」は、彼の宣傳によれば、米本國アノルドの直接指揮下にある世界的機動部隊であると稱してゐる。即ちわが支那大陸東西分断作戦によつて、その航空爆撃飛行機は支那に置くことが出来なくなつたが、インドを根據地として日本本土空襲を、また満洲へ或は東南方スマトラ、マライ半島等への出撃を企圖してゐるのである。即ち飛行機の有する機動力、即ち速度と機動力とを利用して、極めて雄大な作戦が實施せられるのである。まづこの作戦を遂行するには、どうしても飛行部隊が機動力を發揮できるやうに、所望の地點に各種の地上勤務部隊を配置することが必要である

## 飛行場勤務

飛行部隊が指揮官の企圖通り機転して雄大な作戦を遂行するためには、極めて多数の飛行場が必要である。この多数の飛行場を各所に迅速に設定するのであるが、出来上つた

飛行場ではいろいろと勤務する部隊が入用である。大規模の空襲が飛来して着陸して来るが、従つてこれらの飛行機を順序よく、直ちに所定の駐留地へ誘導せねばならない。現在苛烈なる航空爆撃戦が行はれる際、地上で敵機の攻撃を受けると、飛行場の一端に飛行機が正しく並べた飛行場は、一度で全滅してしまふことは極めて明瞭である。従つて近代の飛行場は、沖波からちやうど鯨の尾のやうに各方向に誘導路を出して、地形地物を利用してたどるところに分散配置されるのである。また緊急時にも地形地物の利用もするが、飛行機用の機庫を構築して無害な損害を極力避けてゐるのである

着陸した飛行機は直後の出動のために急速に燃料を補給したり、機銃等も積込まれるのである。ときには飛来した飛行機は一夜をその飛行場に暮らすこともある。空中勤務者のための宿泊や食事の準備も十分しておかねばならない。しかも明日の空中戦闘等を考慮すれば、十分休養も取れ、急速に疲労も回復し、栄養も十分な食事も用意する親切も必要なのである。また、この飛行場には多数の機庫を有する防衛隊だ



である。現地の不便な航空基地でも、空中勤務者のために地上部隊は自己を犠牲にし、あらゆる貴重な食糧品を集めて、水ぎの航空大戦を期待して奮闘するのである。しかしこれだけでは航空作戦はまた出来ない

## 航空通信

飛行部隊がたくさんあつて雄大な地域に分散配置してゐるのを、高級指揮官の意圖通り、通時適切に且つ機転に活用させるためには通信が必要である。各飛行場等は無線通信網を作つて密接に連絡が出来、さらに無線通信網も出来、なほ飛行中の飛行機相互間は勿論、飛行機と地上との通信も絶えず連絡が大切である。これらが極めて円滑に實施されて、初めて航空大戦の作戦も計畫實施されるのである

## 航空情報

敵を攻撃するためには敵情を知ることが大切である。特に飛行部隊は機動力を持つてゐるので、極めて迅速に情報を知ることが必要である。その方法には偵察機が徹底的に侵入して捜索し、必要に応じて機上無線を以て、飛行中の攻撃部隊に、或は航空基地に通信を實施するのである。そのほか敵機の侵入に對しては、地上に對空監視哨を配置し、また必要の地點では電波兵器も利用し、迅速に情報を獲得し、且つ司令部においては、これら情報を迅速に審査して直ちに各部隊へ傳へるのである。特に航空情報は、直後の航空作戦指導上、一時を争ふことを銘記しておか



新機種の整備は迅速が大空を染めて行く

## 気象と航空保安

そのほか航空作戦には気象が密接な關係を持つてゐる。今までは天候不良は飛行中止であつたが、現在は却つて人候を空中の地形地物として逆にも利用するのである

また飛行機がこれら天候気象の如何を問はずに飛行機に活用するためには軍に人力だけでは困難であり、このためにはやはり必要の機械力を利用するのである。即ち航空保安の設備及び運用もまた極めて重要な役割を果すのである



## 整備、修理、補給

飛行機は世界の科學の粋を集めた知識の最高級品であり、空中の威力は非常に強大である。その反面、損耗もまた甚だしく他の兵器等と比べて長時間の使用に堪へない。さらに空中戦闘においては被弾することもあり、不幸地上で爆撃等を受ければ即ち破損してしまふ非常に脆性がある。従つて戦場で飛行機を整備し、修理する部隊も必要となるのである

飛行部隊がかつて大機動作戦をするのであ

るが、大量のガソリンや機銃、機関銃等も常に補充する必要がある

雄大な地域にある多数の飛行場に適切にガソリン、機銃を供給し補充し、且つ飛行機の修理補給の計畫と適切な實行は實に航空作戦の年以上の價值を持つてゐるのである。しかも航空作戦の機転は前線であり、その損害も時には短期せぬほど多量発生する場合もある。ガソリン、機銃の消耗も必量以上となることもある。航空作戦と密接に修理補給の運用が行はれることこそ、航空作戦の一端を決するとも申すことが出来るのである

## むすび

このやうに航空地上勤務部隊が行動するのであるが、さらに飛行部隊の一切の機動力を加へて、こゝに初めて高級指揮官の企圖するやうに航空作戦を計畫せられ、指揮運用されるのである

世界大戦の鍵は航空決戦に在り。敵の航空機動力を徹底的に撃滅して同時に海上勢力も併せて撃滅し、且つ地上の作戦を遂行せしめることこそ必勝の道である

敵アメリカは今や焦りに焦つて無理無理の作戦を強行してゐる。敵の延び切つた腰を打倒しその野望を砕き、必勝の途を獲得するは、實に緊つて航空作戦の優劣にある。今こそ我々は一切を捧げて航空戦力の充實に一切の努力を捧げやうではないか

大本營陸軍報道部



# 空から来た敵は 空で叩く

東京の空はマリアナを経て敵の後方基地、ワイに通じてゐると共に、成都を経てB29の基地といはれるインドのカルカッタにも通じてゐる。しかも科学兵器の進歩は、特には天敵の防壁であつた濃霧や悪気流も征服した。今や航空機は戦争の王者であり、勝敗は空に決せられる。現にマリアナの戦局にしても、わが航空兵力の後継が思ふに任せなかつたため、不振とならざるを得なかつたではないか

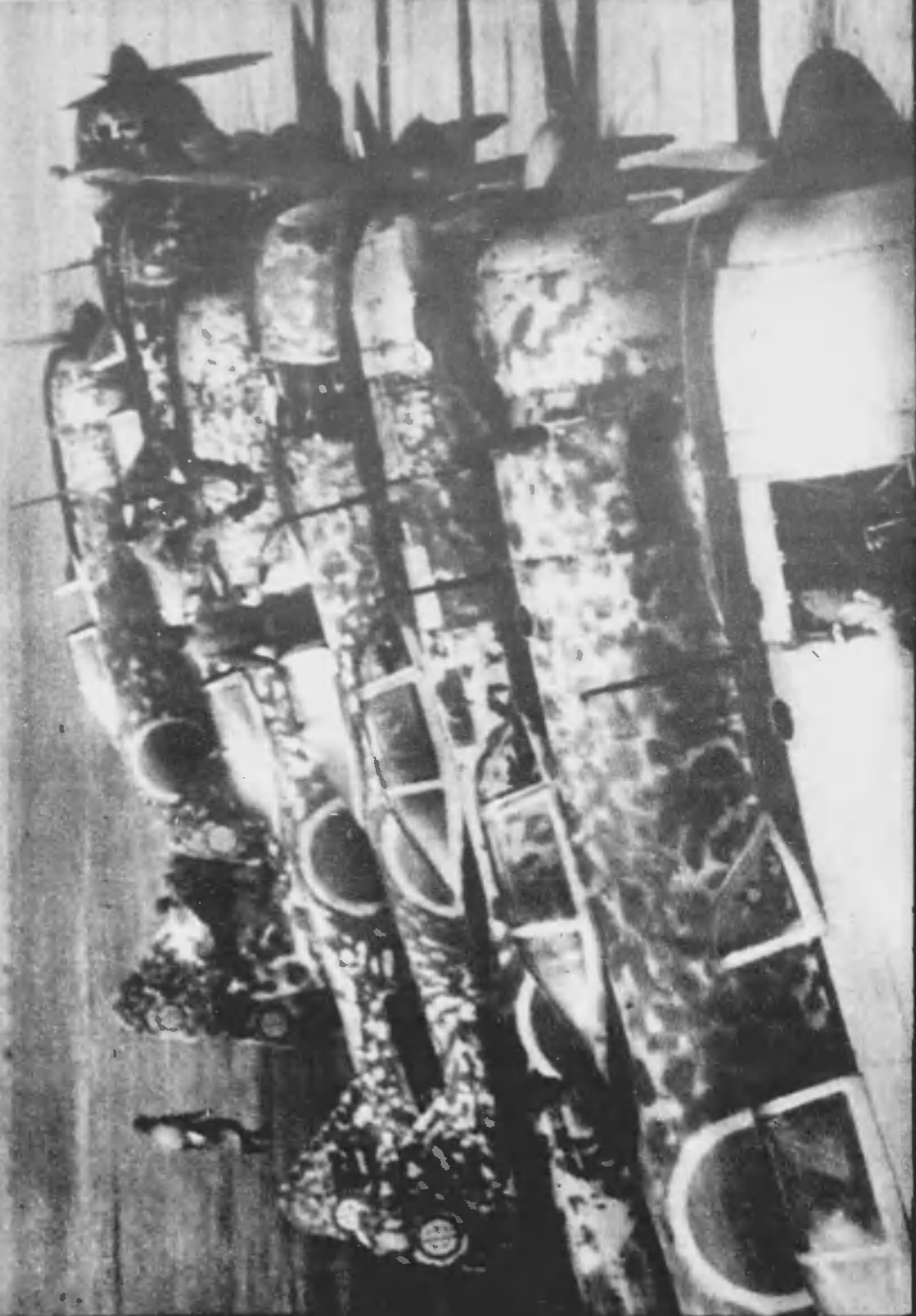
「第一線部隊に、その要路通りの航空機を送り、思ふ存分活躍せしめたい念願で一杯である」と

米内海軍大臣はさる九月八日の第八十五臨時議會に於ける戦況報告の中で述べたが、これこそは同時に、一億の切腹である

空の決戦へわれらは果つて挺身しよう。飛行機を遣らう、飛行機に乗らう。われらの血脈に宿つてゐる精神も機魂を燃上がらせよう、空から来る強敵を空に屠り去れ

## 隊部行飛軍陸野明

航空機をかすめて前進部隊が矢のすりに飛び立つ。射撃をへて見つた空軍は、自信たつぷりに吹き抜しの弾丸を調べる。こゝは伊勢の神宮近く橋のそばつゝまれの明野陸軍飛行隊である。かつて多量の空軍が巣立つた飛行隊も、今は国土防衛の第一線基地だ。必勝を大断りした陸軍の要員たちは空を舞臺を舞で、敵機見守る目を今や強しと待ち構へてゐる。真実さながらの演習はあがて胸のすくやうな大戦果となつてあらはれよう





# いたちも翼水水

われ翼もてりと  
 少年よ 君は  
 身も軽やかに  
 風にのり 雲に舞って  
 蒼穹に悠々と翼を伸ばし  
 とまに軍のごと碧空を渡る

さなりわれらまた  
 翼もたなと  
 少年よ 君ら滑空機を御し  
 高原の青草を蹴り  
 山稜の彼方を目ざし  
 日に月にまたへはげみき

山嶺も見よ  
 今ははやわれら翼もちたり  
 その翼功くとも  
 山嶺の霧をわけ  
 いつかしき峰々をこえ  
 戦ひの空へとはやる

まことこは戦ひの翼なり  
 美し國日本を護ると  
 美し國日本の國原をこえ  
 荒海のたくなはる波濤をこえ  
 いさぎよし戦ひの空へとはやる

少年よ 君ら  
 戦ひの翼もちたり



田原野戦 中隊滑空機の訓練  
 一機今並

中隊滑空機は高度の  
 大氣をきつて突進む  
 機体は、今が滑空  
 機から飛行機へ！  
 一時特別中隊訓練  
 長官野田今並



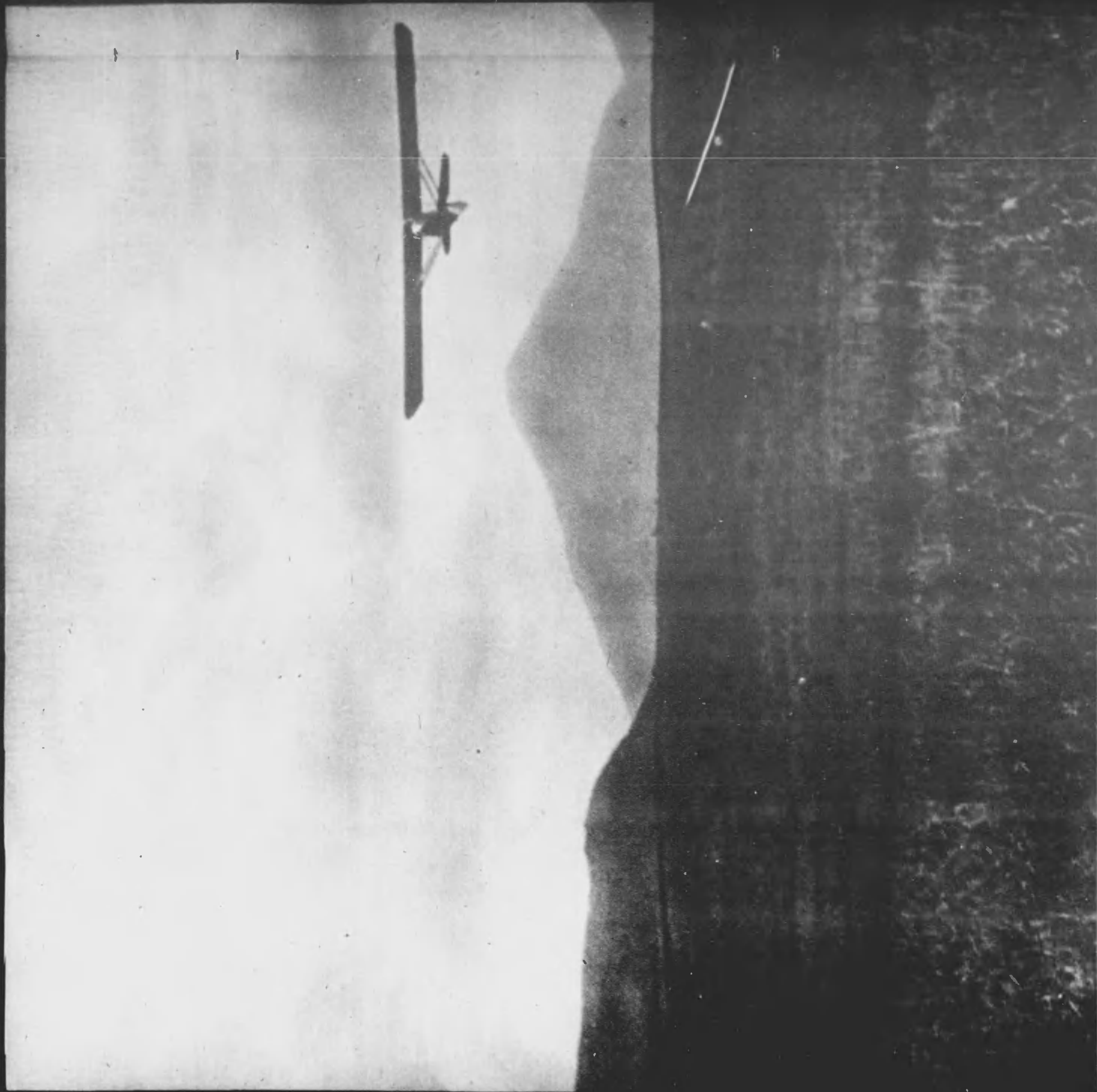
↑ 昇氣流にのつて大空を滑る、健しい高機滑空機



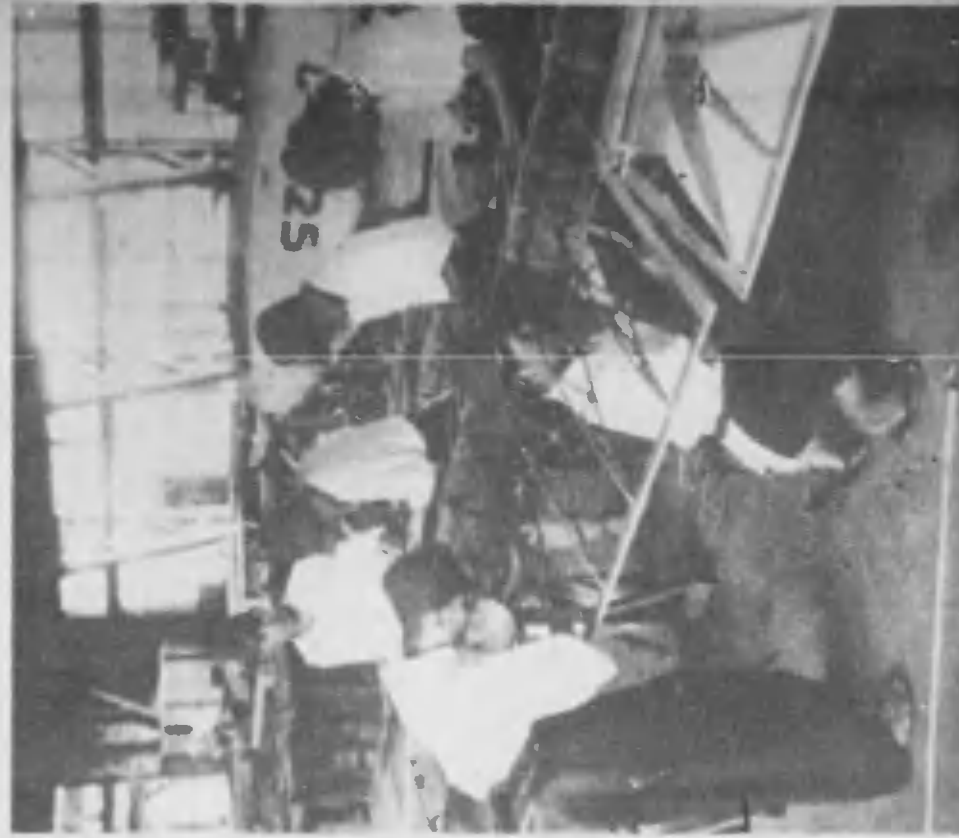
山と草原と青天井の爽々しい野外訓練——石岡

↓ この身を正す滑空機大、祖立真樹も滑空機に——石岡





この身を託す航空機だ。創立員も乗員に——右岡



**成養の員乗機空航般**

航空局直轄の地方航空機員養成所は全国に八ヶ所あり、國民學校初等科修了者の中から選抜入所せしめてゐる。その志願者を九月末締切で募集である。修業四年年、卒業後は二等航空委員として高等航空機員養成所に入所し、一年後修業期間の軍事教育を受けて陸海軍の下士官に任官、除隊後は一等航空委員として國庫官長航空事業に従事する。このうち一部は選抜されて高等科に進學し、二年後修業に任官する。學費は一切官費支給である。なほ修業は東京都葛飾区大塚町の航空局、問合せれば、志願者心得を送つてくれる。

また東京都葛飾区大塚町の大日本飛行協會では、大日本航空青少年及び大日本學生航空隊を組織して、大いに航空知識を普及しつつあるが、本年は特に陸海軍少年飛行兵志願者のために全国的に臨時特別航空訓練を実施中で、これらの指導員養成のため全国九ヶ所の聯合航空訓練所に於て中級訓練を行つてゐる。このほか本年六月末城岡石岡町に大日本航空工業専門学校を設立し、我が國最初の航空機に關する専門教育を行つてゐる。

「更だ」くつとヨム事を誇りしめ本訓練生たちは機身の力を及めて、いちにいちたい、(初歩航空機) —東京都青少年臨時特別航空訓練 葛飾訓練所



週報



# 飛行機を造らう

□ 少しでも翼なくとも。せうだ、遠らう、みんな力を貸せて。 機場の女性も頑張つてゐる。「心不亂に遠らうと」 もう一機、もう一機。僕らの翼を打ちまごせ□

空から来る敵は、どうしても空で撃たなくてはならない。それにはまづ、無敵軍の勇士に翼を持たせることだ

翼、翼。前線ではこの瞬間も、翼が欲しいと叫んでゐる

その聲に聞へよう。翼をつくらう。やがて僕らの造つた翼もて、前線の勇士が大喜びで撃滅戦に飛び立つてゆく

そして翼が、撃滅男らしい働きと華々しい戦果が、前線からの玉返した

